

日韓の打ちことばにおける「経済性」に関する考察

－音韻変化を中心に－

崔鉉弼（韓国外国語大学）

1. はじめに

近年、パソコンやスマートフォン経由のことが多用されているが、このことばのことは、一般的に韓国では「通信言語(통신언어)」と、日本では「打ちことば」と呼ばれている。ここでは、上記の「通信言語」と「打ちことば」両方を便宜上、打ちことばと呼ぶ。打ちことばでは、短い時間で多くの情報や感情を伝えるために、キーボードやボタンを押す手間を省くための「経済性」が重視される。その場合、音素の脱落や縮約などの音韻変化が起き、「経済性」と音韻変化は密接に関連している。そこで、本研究では、この打ちことばにおける「経済性」について音韻変化に焦点を当て、日韓の比較考察を行う。

2. 先行研究

ここでは、日韓の打ちことばの「経済性」に関する研究について検討する。

シ・ジョンゴン&ソン・ミンギウ(시정곤・송민규2002)では、打ちことばのことをサイバー言語(사이버 언어)と呼び、経済性の原理がサイバー言語上での発話の速度を向上させるために用いられると述べている。シ・ジョンゴン&ソン・ミンギウ(시정곤・송민규2002: 220-221)では、サイバー言語において、「経済性」は「発話速度の向上」のために必要であるが、これに違反する場合は話者が自分の個性を表したり、言葉遊びを楽しむことを目的とすると結論づけている。

パク・チョルジュ(박철주2006)では、1次言語は音声言語、2次言語は文字言語、そして3次言語が通信言語、つまり打ちことばであり、3次言語としての打ちことばはさらに発展するとの見方を示している。これは、Crystal, D(2008: pp.3-10)で、通信言語の更なる発達が世界的に行われてきていると論じていることとも同じである。一方、パク・チョルジュ(박철주2006)では、音韻の脱落や縮約(例: 메일→멜, 기억→겨)は「打つ回数を減らす」という打ちことば本来の目的に合っているものであるに対し、音韻添加(예: 오빠→옴빠, 사모님→싸멋님)はその目的に違反するものと主張している(pp.464-469)。そして、韓国の打ちことばの名词においては、もっとも生産性が高いのは連音(リエゾン: 例>만우절→마누절)で、口蓋音化(例: 불임성→부침성)と異化(例: 콧물→콘물)は生産性が低いことを主張している(pp.481-482)。このことを踏まえて考えると、韓国の打ちことばではリエゾンが頻繁に起き、その意図は打ちやすさと個性に関連する可能性が高い。ここで言う「打ちやすさ」とは、結局、「時間と手間の節約」という「経済性」と関連するもので、韓国の打ちことばでは「経済性」が生産的な名词の増やし方に使用されると考えられる。

イ・ジョンボク(이정복2009)は、韓国の打ちことばの長年の研究を集大成したもので、打ちことばの使用動機の一つとして、「経済性(経済的動機)」を挙げている。イ・ジョンボク(이정복2009: 18-21)では、初期の打ちことばは通信網の不安定さから一字でも速くかつ多く打とうとし、音素や音節の縮約が多かったが、ブロードバンドの普及が進んでいる今でも「経済性」による表記が多いのは、時間や手間を省くことと綴りの順守から逸脱するという解放感、そして綴りの決まりを意図的に守らないことで新鮮さを表そうとする表現動機があると述べている。つまり、「経済性」は一見、キーボードやボタンを押す手間を省くことだけを目的とするように見えるが、実際はより多様な動機で使用されていることが分かる。

チョ・ミンハ(조민하2016)では、韓国の打ちことばにおける「経済性」と年代別の特徴について論じている。チョ・ミンハ(조민하2016)で注目したいところは、打ちことばにおける「経済性」をより具体化した点である。チョ・ミンハ(조민하2016: 64-65)では、打ちことばでは集团的コミュニケーション空間で伝えたいことをより速く表現するために単純化した形式が好まれ、「経済性」は打ちことばを規定する主な特性であることを先行研究から述べている。そして、打ちことばにおける「経済性」は、開放性(개방성)・柔軟性(융통성)・平等性(수평성)による話しことばでのコミュニケーションを一層強化した形で表れると主張している。また、韓国の打ちことばにおける「経済性」は、10~20代ではスラングや俗語による新表現の使用、30~40代では便利性の目的で使用されることを明らかにしている。しかし、実際に、打ちことばは年齢、性別、地域の特定がほぼ不可能である。よって、チョ・ミンハ(조민하2016)での結論は、決められた枠内でのものであり、自然体としての打ちことばの様相を十分反映したとは言いがたい。

一方、日本における打ちことばの研究は極めて少ない。「打ちことば」という用語を使って定義したのは、田中(2014)が初めてではあるが、三宅(2005)で携帯電話のメールを対象として、「携帯メールは、従来の『書きことば』」と『話しことば』の二分法の枠組みを超えた、ダイナミックなことばの使われ方を実現させている(p.258)」と述べており、打ちことばの概念を先駆的に主張している。

内山(2010)では、2ちゃんねるとニコニコ動画におけるネット用語の使用様相について論じているが、内山(2010:234)におけるネット用語を産み出すものとしての「差別化」、「省力化」、「新奇嗜好」を挙げており、「省力化」は「経済性」と同じものとして捉えられる。しかし、内山(2010)では「省力化」の類型を示しているためだけで、具体的な説明は割愛されている。

以上のことから、韓国の打ちことばにおける「経済性」は十分検討されてきているのに対し、日本の打ちことばの場合はほとんど目を向けられてこなかったことが分かった。そこで、本研究では、「日韓の打ちことばの音韻変化と『経済性』との関係、そしてその表現意図を明らかにすること」を研究目的とする。

3. 研究方法

ここでは、研究方法について述べる。まず、データは、2020年5月から10月にかけて、日本語の場合は、ツイ

ッター(Twitter)と連動されるYahoo!リアルタイム検索、青少年オンラインコミュニティであるキャスフィ(2021年3月付閉鎖)を対象として収集した。韓国語の場合は、ツイッターのリアルタイムトレンド、オンラインコミュニティであるDCインサイドギャラリーを対象としてデータを収集した。データは、日韓両方とも音韻変化が起きているものを収集しており、全体用例は、日本語の場合は計829例、韓国語の場合は計255例が得られた。韓国語の用例の場合は、ツイッターリアルタイムトレンドの用例が芸能人やアイドルのトピックに集中されていること、DCインサイドギャラリーの人気の掲示板は程度を超える悪口、卑下語、他人への罵倒と侮辱、軽蔑などの表現がほとんどであることから有効な用例があまり得られなかった。そこで、日本語に比べ、有効用例が少なくなっている。収集したデータはエクセルで整理し、ピーボットテーブルを作成して統計とグラフを算出した。次は、分析結果と考察について述べる。

4. 分析および考察

まずは、日本の打ちことばの分析結果から述べる。日本の打ちことばにおける音韻変化の中で、「経済性」に関するものは52例であり、全体の約6.3%であった。つまり、「経済性」以外の使用意図を持つものが全体の約93%であり、「経済性」よりも圧倒的に多かった。「経済性」に関連する音韻現象は、「縮約(44例)」が最も多く、全体の9割以上を占めていることが分かった。少数の例として、「脱落(5例)」、「複合類型(複数の音韻現象が同時に起きている類型:2例)」、「表記省略(1例)」などがあった。上記のことから、日本の打ちことばでは、「入力に必要な時間や手間の節約」よりも「手間がかかっても伝えたい感情と情報」を非常に重視することが明らかになった。また、上記の「経済性」に関連する4つの音韻変化の表現意図は、「縮約」は、「便利性(39例)」、「話し言葉(5例)」、「脱落」は「便利性(4例)」、「複合意図((複数の表現意図が同時に表れたもの:1例)」であった。「複合類型」と「表記省略」はそれぞれ「便利性」と「複合意図」が1例ずつあった。以下に、代表的な例を示す。

例1>俺でいいかわかんないけどはなそ <縮約(単音化): 便利性>

例2>オラクル???どして?? <縮約(単音化): 便利性>

例3>詠唱ギリで倒せて???ってなちゃた <脱落: 便利性>

例4>マックナゲットうま <脱落: 複合意図(便利性+話し言葉)>

例5>つか、そんなの見て行くんだ! ?的な? <複合類型(脱落+縮約): 複合意図(便利性+話し言葉)>

例6>ボムギュの儂げfaceほんまに好 <表記省略: 便利性>

次は、韓国の打ちことばの分析結果について述べる。韓国の打ちことばにおいて「経済性」に関連する用例は、90例であり、全体用例の約35%を占めていることが分かった。日本の打ちことばの場合は、「経済性」に関連する用例は約6.3%であったのに対し、韓国語の場合ははるかに多いことが浮彫りになった。具体的には、「複合類型(31例)」が最も多く、「交替(21例)」、「脱落(15例)」、「リエーゾン(10例)」、「縮約(9例)」、「合わ

せ書き(4例)」順であった。このことから、韓国の打ちことばは、日本の打ちことばに比べ、「経済性」を非常に重視し、多用することが明らかになった。また、「経済性」に関連する音韻現象の表現意図としては、「複合類型」は「便利性(26例)」、「複合意図(5例)」であり、「交替」は「便利性(18例)」、「複合意図(2例)」、「話し言葉(1例)」の順であった。「脱落」は「便利性(13例)」、「複合意図(1例)」、「個性(1例)」であり、「リエゾン」は「便利性(9例)」、「複合意図(1例)」の表現意図を持つことが分かった。「縮約」は「便利性(9例)」、「合わせ書き」は「便利性(2例)」、「複合意図(2例)」の表現意図を持っていた。以下に代表的な例を示す。

例5>대충 외웠으니 내일 어케든 되겠지 <複合類型(脱落+縮約): 便利性>

例6>아만 싫어하는 멤버 있어도 지 최애한테 미움 받을까반 말썽기 이상의 것은 잘 못하던데 <交替: 便利性>

例7>검고양이 실트잔아 <脱落: 便利性>

例8>다른 이라고 쳐봤는데 너무 마나나옴 <リエゾン: 便利性>

例9>나도 대걸 물류관리직군하나 넣었었는데, <縮約: 便利性>

例10>알맘= 마음 맞는분 찾아갑니다 <合わせ書き: 複合意図(便利性+個性)>

上記のことからは以下のことが考えられる。

ア. 日本語の仮名文字の特性上、打ちことばにおいて子音(特殊拍以外)・母音の脱落は起きにくいことから「経済性」に関連する音韻現象も起きにくい。一方、韓国の打ちことばはハングル表記での脱落・縮約などが容易であるため、「経済性」に関連する音韻現象が起きやすい。

イ. 日韓の打ちことばともに「経済性」に関連する音韻現象の表現意図は、圧倒的に「便利性」が多い。

ウ. 韓国の打ちことばのほうが「経済性」に関連する音韻現象のバリエーションが多い。

以上、分析結果について述べた。

5. おわりに

本研究では、日韓の打ちことばにおける「経済性」について音韻現象とその表現意図に焦点を当てて論じた。当初は、先行研究の検討から「便利性」以外の表現意図も多数あるであろうと予測していたが、結果的には日韓両言語ともに「経済性」は「便利性」という表現意図と密接に関連していることが再確認できた。一方、日本の打ちことばにおいて「経済性」に関連する用例が約6%であったことは予想よりも遥かに少なかった。今後、日韓の打ちことばにおける「経済性」以外の使用意図に関連する音韻現象を比較考察し、日韓の打ちことばにおける音韻現象と表現意図について総合的に考察していきたいと思う。

< 参考文献 >

- 박철주(2006) 「PC통신언어 명사의 음운론적 연구」 『국어교육』 119, pp.457-486
- 시정곤·송민규(2002) 「사이버 언어와 경제성의 원리」 『국제어문학회』 25, pp.201-224
- 이정복(2009) 『인터넷 통신 언어의 확산과 한국어 연구의 확대』 소통
- 이주희(2010) 「통신언어의 표기와 음운적 특징」 『언어연구』 27(1), pp.1-18
- 조민하(2016) 「통신언어의 경제성과 연령 별 특징- 축약과 탈락을 중심으로-」 『돈암어문학』 29, pp.63-86
- 최현필(2021) 「일본 통신언어의 모음변화에 대해」 『일어일문학연구』 117, pp.56-76
- 内山弘(2010) 「ネットの日本語-2ちゃんねるとニコニコ動画を中心に-」 『地域政策科学研究』 7, pp.219-236
- 金曙泳(2019) 「現代日本語と現代韓国語の『若者言葉』と『打ち言葉』」 『일본학연구』 57, pp.183-203
- 岸本千秋(2005) 「ネット日記における読み手を意識した表現—公開意識との関連から—」 三宅和子・岡本能里子・佐藤彰編 『メディアとことば2—組み込まれるオーディエンス』, ひつじ書房, pp.204-231
- 定延利之(2014) 「話し言葉が好む複雑な構造—きもち欠乏症を中心に—」 石黒圭・橋本行洋編(2014) 『話し言葉と書き言葉の接点』 ひつじ書房, pp.13-36
- 田中ゆかり (2014) 「打ちことば」 佐藤武義・前田富祺編 『日本語大事典(上)』 朝倉書店, p.11
- 三宅和子(2005) 「携帯メールの話しことばと書きことば—電子メディア時代のヴィジュアル・コミュニケーション」 三宅和子・岡本能里子・佐藤彰編 『メディアとことば2—組み込まれるオーディエンス』, ひつじ書房, pp.234-261
- (2014) 「電子メディアの文字・表記—「超言文一致体」の現在と未来」 高田智和・横山詔一編 『日本語文字・表記の難しさとおもしろさ』, 彩流社, pp.198-183
- David Crystal(2008) *Txting The gr8 db8*. Oxford University Press. New York